

会 議 録

1 会議名

平成29年度第3回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成29年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成29年5月29日（月）午後6時00分から午後8時23分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、
青山義一、磯田一裕、伊藤邦雄、今川芳夫、河野健一、小林克美、
田中美佳、田村利男、田村雅春、中澤武志、町屋隆之、丸山朝安、
（欠席3名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、荒木係長、星野主事

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：伊藤委員、小林委員に依頼

議題【協議事項】平成29年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・本日の協議の進め方について説明

本日、地域協議会委員からの質問に対する提案団体の方からの回答書に目を通していただき、その後、1件ずつ協議していきたい。

【青山恭造会長】

最初に「No.1 篠笛を普及し地域文化に貢献する事業」について、回答書に見ていただくため、5分程時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や疑問等があれば挙手願う。

【町屋委員】

祇園祭の笛の練習とは全く関係のない「サークル活動」として見たほうが良いのか。祇園祭の関係だと、各町内との整合性等の問題が出てきてしまう。そこをどう捉えれば良いのかが分からない。

【増田副会長】

質問で「サークル活動と見えますがどうですか」とあるが、回答は「サークルとは異なる」と書いてある。だが皆さん、サークル活動的な要素が強いと思っていると思う。あとは、そこを判断し、点数を付けるかである。

【田村雅春委員】

篠笛に関しては、今まで各町内会で伝承してきたものである。多少の違いはあるが、それが町内の特徴なので良いと思っている。

私が質問したことに対し、回答をいただいているが、少し抜けているような気がする。この場へ来ていただき、思いを述べていただくことが良いのではないか。

【増田副会長】

ヒアリングは思いを述べていただく場ではない。ヒアリングは「ここを聞かないと採点できない」という点があれば来ていただき、そこを聞くということである。

【田村雅春委員】

承知した。

【小林委員】

各町内の篠笛は全く音色が違う。提案団体の方が指導され、自分の町内に戻って一緒に演奏したら全く違うということにならないのか。

【町屋委員】

回答書に書かれている文言を見ると、根底に「祇園囃子研究会」というものがあるのではないかと。町内のオリジナリティも良いが、せっかくなので正調と言われる祇園囃子も覚えてもらおうということで活動しているので、その流れの中のものだと思う。

祇園囃子を習って、自町内に帰った時、子ども達が混同しなければ良いと思っている。当事業は良いことだし、篠笛を始めて1、2年の子が吹けないのも確かである。

【小林委員】

「祇園囃子研究会」は、まだあるのか。

【町屋委員】

まだある。だが、6月に入って少し活動するだけで、それでは目的が達成できないという思いがあるのだと思う。

【中澤委員】

各町内では、口を当てるものなので個人の持ち物としており、家に帰ったら自主練習も出来る。そして、練習しながら小学校の児童（高学年）と青年会の方々がコミュニケーションを取っている。それがとても大事なことだと思っている。

各町内、このような形でやっている中で、当事業を地域活動支援事業で採択するとすると、どうなのか。

【青山恭造会長】

他に意見等はなく、ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.2 クリーンナップ上越 in 五智事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や質問等があれば挙手願う。

【町屋委員】

最初は地元とタイアップし、最終的には直江津全体に拡げていくという話で活動してきたと思う。だが、回答を見ると、「事業規模からも他校へ拡大する予定はありません」とあるが、五智の一部の地域だけで、そこから拡げるつもりはない、というふうに捉えてしまう。

【青山恭造会長】

他に意見等はなく、ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.3 『米作り体験』事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や質問等があれば挙手願う。

【町屋委員】

回答を見て思ったことは、今までのやり取りから考えると承服しがたいものがある。当事業は町内行事ではなく、まち全体を対象を拡げてやっていくと言っていたのに回答書を見ると、やはり町内行事でしかないという思いが非常に強い。

【増田副会長】

この回答では趣旨が分からないというのであればヒアリングに来て説明していただければ良い。

【町屋委員】

では、この回答だけなら、この回答を真摯に受け止めて採点をしてください、ということか。

【増田副会長】

そうである。

【田村雅春委員】

聞いている話だと、直江津地区の全町内に回覧しているとのこと。

【今川委員】

米が100kg以上余るが、前は余ったお米を買っていただいていたとのこと。だが、それでも余るので分けているとのこと。

【町屋委員】

事務局へ確認だが、売って収入を得ても問題はないのか。

【田村雅春委員】

収入を得た場合はその分の補助金を返さなくてはいけない。

【町屋委員】

無料で参加した方に、無料で配るのも反対だが、それ以前の問題として、余ったお米を売って会の収益になるのはいかがなものか。

【荒木係長】

当時、当補助金を活用してかどうかは確認してみないと分からないが、基本的に収益が出た場合、収入として計上いただき、その分と自主財源を差し引いた額が補助金となる。

【青山恭造会長】

提案者からヒアリングに来ていただいたほうが良いと思う方は挙手願う。

(挙手少数)

【磯田委員】

提案者からヒアリングに来ていただきたい、と思う委員の方が一人でもいれば、ヒアリングを行ったほうが良いのではないかと。

【増田副会長】

ヒアリングをしないと採点できないということであればヒアリングを行い、回答書で判断できるということであればヒアリングは行わないことで良いのではないかと。

【磯田委員】

やはり、1人でもヒアリングの希望者がいればヒアリングを行ったほうが良いのではないかと。

【今川委員】

事務局から再質問してもらい、それで解決できれば良いのではないかと。

【滝澤センター長】

事前に質問を委員の皆さんから出していただき、それに対して提案者の方々は回答している、再度、質問をするというのはいかがなものかと思う。採点に影響があるようなものがあれば、ヒアリングに来ていただければ良いのではないかと。

【中澤委員】

当提案の主旨は生きているように感じる。各町内会へ案内を出しているし、実際にいろいろな町内からの参加もある。ポイントがずれている回答もあるが、そこまで気にしなくて良いのではないかと。

【町屋委員】

回答書を見て判断せざるを得なくなる。

【中澤委員】

基本的にそれで良いのではないかと。納得できないなら、できないなりの採点をすれば良い。

【田村雅春委員】

過去の実績を見て判断するしかないのではないかと。

【増田副会長】

「適切」か「適切ではない」かという判断は個々の委員がすれば良いのであって、皆さんが適切ではないと言っているから反対しましょう、という場ではない。そこは間違えないでほしい。

【青山義一委員】

ヒアリングの対象者は、半数以上にならないと呼べないのか。それとも、1人の委員がヒアリングしたいという思いがあり、皆さんも呼んでも良いのではないかということになれば呼んで良いのか。

【青山恭造会長】

いきなり提案者を呼んでいろいろな質問をすると、提案者の方も困ってしまうと思うので、ある程度の質問の内容を伝えておきたい。

提案者を呼びたいと思う委員の方は、呼びたい理由を明確にしていきたい。

【小林委員】

回答書では、「子ども会員で分ける」と言っているが、直江津南小学校の給食の材料として寄付できませんか、というような聞き方はできないのか。

【増田副会長】

それは、採点の時の附帯意見として出していきたい。

【町屋委員】

私は、子ども会員に分けていること自体が問題だと思っている。参加料だけでも取ってできないのか。他町内からの参加もあるが、回答書に「町内行事が発足の原点なので参加費は無料の方針です」となっているので、やはりこれは町内行事ではないか。こちらからいろいろなことを言っても、事業実施者の考え方は最初から何も変わっていない。町内行事を無料で行い、少し対象を拡げただけではないか、という思いが一向に払拭できないという部分があり、ヒアリングに来ていただきたいと思っている。

【増田副会長】

町屋委員の意見に賛同する方が大勢いればヒアリングに来て説明してもらうことになるし、少人数であれば来ていただかなくて良いことになる。

【青山恭造会長】

- ・ヒアリングの実施について、委員の過半数以上の挙手があった場合に実施するという事で委員から賛同を得る。
- ・再度、提案No.3について、ヒアリングを行うかを協議し、行わないことで同意を得る。

次に「No.4 直江津駅前環境美化推進事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

意見や質問なし。ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.5 五智公園の整備、有効活用支援事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や質問等があれば挙手願う。

【田村利男委員】

5月8日（月）に現地へ行ってきたが、小学校の団体が2校来ていた。

【青山恭造会長】

他に意見等はなし、ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.6 昭和・平成の直江津の自然災害等の検証と今後を見据え伝える事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や質問等があれば挙手願う。

【田村雅春委員】

事務局へ確認だが、配布先が「上越市の図書館、小・中学校、集会施設、幼稚園、養老施設」となっているが、500冊では足りないのではないかと。「上越市」ではなく、「直江津区内」の間違えではないかと。

【青山恭造会長】

ヒアリングに来ていただき、聞いたほうが良いのではないかと。

【町屋委員】

提案書を見る限りだと、自分史とかの集団版で、自分の思いだけで突っ走っているようにしか思えず、回答書だけでは判断できない。内容も公式に通用する保証がない。

【青山恭造会長】

昨年、絵本の内容が分からず、不採択という事業もあった。

【町屋委員】

それを言うと、出版するものに関しては全てにおいてそうである。想像や検討はできるが、イメージができない。

【小林委員】

提案書の設立年月日を見ると、平成26年4月になっており、3年程掛けて調査して

いると思うので、それなりの積み重ねがあるのではないかと。

【町屋委員】

自費出版するには全く問題がないと思うが、それに対して公金を使い、まちのためになるというのは違うのではないかと。「上越市史や直江津市史を作りたい」というのとは訳が違う。自分たちの思いを形にしたい、残したいということだけ。それに公金を使うのはいかななものか。

【中澤委員】

前回の会議では、肯定的な意見が出ていた。当事業は正史を出すというよりも、一町内会でも出していたが、こういうものを他の町内会でも出すということに価値があると思っている。きちんとデータ分析をし、公金を使って良いか、悪いか、というように厳しく追及したら、事業全体のハードルが高くなってしまっているのではないかと。

【青山恭造会長】

他に意見等はなし、ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.7 直江津区小学生育成事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や質問等があれば挙手願う。

【田村雅春委員】

質問に対する回答に正確性がないように思った。

【町屋委員】

「今後の事故などの保障はどうされますか」という質問に対し「各団体で対応します」と回答されている。それは当たり前だが、では、何故提案されている団体が出てきたのか。当事者は提案されている団体ではないのか。当事者ではないから団体が責任を負う話ではない。それなら、支柱が欲しいと言われても困ってしまう。

そもそも、学校で使っている備品が古くなったから当補助金で買い替えるというのはいかしくないか。

【小林委員】

事務局に確認だが、現在使っている支柱の所有者は誰なのか。

【荒木係長】

教育委員会である。

【青山恭造会長】

他に意見等はなし、ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.8 福島城の顕彰事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や質問等があれば挙手願う。

【田村利男委員】

旧デイホーム古城というのは、古城小学校内にあった施設なのか。

【荒木係長】

古城小学校の建物の一部を改装した施設だが、仕切りはしてある。

【田村利男委員】

承知した。

【青山恭造会長】

他に意見等はなし、ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.9 『なおえつ物語』発信事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や質問等があれば挙手願う。

【町屋委員】

備品購入に関しては、この場でも何度も協議してきたことだが、ジャンパーの購入について、他の方の意見があれば教えていただきたい。

【磯田委員】

提案No.7でもユニフォームの項目があるが、ユニフォームについては個人的に所有するだろうと考えられる。だが、ジャンパーは、ユニフォームとは少し性質が違わないか、という議論を先回の会議で行った。地域活動をしていく上で、啓蒙や団結力を高めていく、その事業に対しての参加性を高めていくというようなことに使うのではないかという話だった。そこをどう判断するかは各個人に任せる。その中で、この質問が出てきたという状況である。

【田村雅春委員】

当事業は貸出しカード的な台帳を作ると回答をいただいている。以前から考えれば一歩前進したのではないか。主旨を理解していただいているのではないかと考えている。

【青山恭造会長】

他に意見等はなし、ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.10 船見公園夕日コンサート事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や質問等があれば挙手願う。

【小林委員】

周囲の音の影響についてだが、以前、有名人を呼んで催し物を行った際、スピーカーを海のほうに向けて行った。提案書を見ると、沖見町がすぐ傍にあるがその辺はどうなのか。

【町屋委員】

提案は「カラオケ大会ではない」という中身になっているが、カラオケ大会の拡大版みたいなものをやりたいというふうを感じるが、皆さんはどうか。そして、そのためにマイクロバスが必要なのか。

協賛金を集めて事業を行うのなら良いが、公金を使って実施するというのはどうか。

【小林委員】

以前、有名人を呼んで行った催し物の費用に1千万円以上掛かり、スポンサーからお金を集めるのに苦労したのだが、とりあえずこの辺から始めておいて、新潟市の夕日コンサートまではいかないまでも、そういう下地作りをし、直江津海岸からの夕日を広めていくための一つのきっかけとしてのイベントになっていけば良いと思っている。

【町屋委員】

質問で「市内外の事業所等から寄付を募るなり自主財源をある程度確保してから提案されてはどうか」という質問に対し「予算的にはこれが全てではない、各事業所・商店様への協力をお願いしていく」とあるが、どんな事業でも予算を盛って、積立をしてきており、予算超過したら自主財源で賄うと思うが、そもそも事業所や商店から寄付を募るといのは事業計画としてどうなのか。

【滝澤センター長】

最低限の予算を計上しているが、寄付等があればその分自主財源を増やしていただき、実績報告の際にきちんと出していただくこととなっている。

【青山恭造会長】

先ほどの小林委員のスピーカーの方向についての話だが、そこは重要なのではないかな。うるさいと思う方もいれば、聞きたいという方もいるかもしれない。

【滝澤センター長】

近隣町内会の方々との話し合いで決まってくると思う。

【田村雅春委員】

回答書に「予算的にはこれが全てではない」とあるが、現在の提案額が74万7,000円である。もし、寄付金等が集まれば提案額から引くということか。

【滝澤センター長】

場合によっては、提案されている以外にもお金が必要になってくるかもしれないので、その際は、各事業所や商店へ協力をお願いしていきたい、ということである。

【町屋委員】

マイクロバスの借り上げまでする必要があるのか。

【中澤委員】

雨天の際、屋台会館を使う予定である。その際の送迎としてバスを使うのではないか。

【青山恭造会長】

その辺をヒアリングで聞くことも可能である。

【増田副会長】

寒ブリ祭りの際、当初はマイクロバスを借り上げ、無料で送迎していた。船見公園夕日コンサートは初めての事業なので、そういう便宜を図らなくてはいけないだろうということを想定して直江津駅からバスで運ぶという趣旨だと理解している。だが、そこまでする必要があるか、ないかというのは皆さんの判断だが、提案者は、なるべく多くの方に来ていただきたいという思いで計上してあるのだろうと思っている。

【青山恭造会長】

他に意見等はなし、ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.11 《直江津港から元気発信》事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書確認 —

では、意見や疑問等があれば挙手願う。

【町屋委員】

やはり、3年で撤去するのは早すぎると皆さん思っていると思う。だが、回答書の中に「3年間の保証の下で設置したもの」とある。そうなると、3年過ぎて壊れたら文句が言えないし、そういうものなのかとも思う。それと「地権者の方に、そう長くは貸せられないとの約束もあり、3年から5年間で約束をしている」と書いてあるが、最初の

提案ではそんな話は出ていなかった。何故、このタイミングでその話が出てきたのか。

質問票に「看板Bの内容を書き換えるメリットは何でしょうか」とあるが、その回答に驚いている。詳しい方がいたら教えていただきたい。

【田村利男委員】

回答の中に「事業の採択後に、改めて市関係課や県と協議していきたい」とあるが、これでは計画が甘過ぎていないか。

【田村雅春委員】

今までの計画が余りにも甘いという認識にならざるを得ないと思っている。

【町屋委員】

質問の「新水族博物館のオープンに向けて、再度計画を練るお考えはありますか」という質問の意図は「一旦、提案を取り下げて」という意味だったのだと思う。この質問だと遠回しすぎて、提案者には伝わっていない。新水族博物館整備課ともう少し話し合いをして考えていってはどうかということだと思う。

【田村利男委員】

私も同じような質問をしたが、意図が少し違う。

【町屋委員】

では、出てきた質問をまとめる時に表現が変わってしまい、質問した人の意図が提案者に伝わらなかったということで理解する。だが、今回は諦めていただきたい、というのは、提案者側には伝わらなかったのではないか。

先ほども質問だが、「看板Bの内容を書き換えるメリットは何でしょうか」とあるが、看板に問題があったから書き直すということなのか。

【荒木係長】

看板に「つりは安全な所で」と書かれているのだが、釣り客に「港湾区域で釣りをして良い」と勘違いされると問題があるので、書き換えたいということである。

【町屋委員】

この看板を作る時、釣り場が解放されることをアピールしたいと看板を作ったのだと思う。話がおかしくなってしまう。

【磯田委員】

看板Bについては、早く替えるということだった。老朽化と言っているが、2年で駄目になってしまうのかと思い質問したが、回答としては、少し問題がある内容で返って

きたということだと思う。

釣り場の解放は去年で、看板Bの提案があった時は釣り場解放になっていない。

【田村雅春委員】

今までの質問で「港湾事務所に確認したのか」という質問に対し、「了解を貰っている」という回答だった。

【町屋委員】

その頃、実験的に開放もしていたのではないか。

【荒木係長】

看板を作成したのは、実験的に開放していた時よりも前である。

【青山恭造会長】

では、その辺も含め、提案者から来ていただいたほうが良いと思う方は挙手願う。

(挙手多数)

では、ヒアリングに来ていただくこととする。

次に「No.12 ビーチフェスティバル in なおえつ事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や疑問等があれば挙手願う。

【増田副会長】

事務局に確認だが、提案書の「次年度以降の見通し」に『活発なまちづくりができていくことを期待します、次年度以降は実行委員会が中心となり、地元地域団体が率先して事業に取り組むことにより地域全体の交流人口が増加し、町全体が活性化に繋がっていくものと考えます』とある。そして、回答書には「地域活動支援事業がなくなったり青年会議所からの財源がなくなったとしても、入場料や出店費などで運営を賄えると考えております」とあるが、全て、他の方がやる、というスタンスに思える。青年会議所が責任を持ってやる、というスタンスではない。事業を実施せず、今年だけの事業になってしまうのはいかがなものか。他の提案は「次年度以降も継続します」と書いてあるので、計画性を考えると出来るだろうと思っているが、当事業については確約できないのではないか。

継続性について、事務局としてはどのように考えているか。

【滝澤センター長】

青年会議所の方も実行委員会のメンバーに入り、1メンバーとしてサポートしていく、とあるので、採択後、附帯意見にするか協議していただきたい。

【竹内副会長】

事務局へ確認だが、ビーチバレーやテニスをする際、コートは作らないのか。以前、国体でラグビーを砂浜でやったが、その際のコート作りが大変だった。

【増田副会長】

もし、その費用が掛かったとしても見積もりにも入っていないので、地域活動支援事業としては出せないことになる。

【磯田委員】

聞いている話として、ビーチバレーは午後2時くらいに終わるとのこと。それからビーチバレーのコートを片付け、同じ場所でテニスをやると言っていた。

ビーチラグビーについては、試合というよりは、体験講座みたいなものらしい。

【中澤委員】

4種目を実施するスペースがあるのか、という質問をしたが、前夜、天気が悪くなればいろいろなものが流れ着いたりする。非常にリスクが高い提案だと思っている。

【町屋委員】

補助の対象経費である会場設営に関わる費用と、自主財源で行う賑やかしのための費用を分けているが、雪遊びに使う雪運搬費は、補助対象として必要なのかと感じた。だが、提案者の方々もその辺も理解して、きちんと分けて提案していることに関しては考慮していきたい。

【青山恭造会長】

では、提案者から来ていただいたほうが良いと思う方は挙手願う。

(挙手多数)

では、ヒアリングに来ていただくこととする。

次に「No.13 子どもたちのための「なおえつものがたり」〈地域食編〉事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や疑問等があれば挙手願う。

【町屋委員】

作った冊子の配布先が子ども達ということで採択になっている事業がたくさんあるが、

それはいつまで続くのか。

当事業は今年で3年目だと思うが、例えば昨年の中学3年生は今年貰えないことになる。本当に良い物であればもったいない話ではないか。きちんとみんなに渡るようにしていただきたいが、毎年、進級したり、進学したりする度に刷っていけばかなりの数になってしまう。せっかく良いものを作るなら今の時代、良い物はいくらでもあるので活用していただきたいと思った。お金を掛けて作るならそういう部分に掛けても良いのではないか。来年以降に進学や進級する子ども達の目にも触れさせるべきではないか。

私は、ホームページやCDにコピーしたりすれば良いと思ったが、回答を見ると少し価値観が違うように感じた。

これまでやってきたことが今回で終わってしまって良いのか。作成者側はそれで良いのか、という思いをぶつけてみたい。

【青山恭造会長】

他に意見等はなし、ヒアリングを行わないことで委員から同意を得る。

次に「No.1 4 佐渡寒ブリ祭り事業」について、再度時間を設ける。

— 回答書を確認 —

では、意見や質問等があれば挙手願う。

【田村雅春委員】

当事業は、地域活動支援事業が始まってから提案していただいているが、今まで相当な費用を使っており、定着したことは間違いないが、県外客を呼び込めていないと思っている。上越市全体に拡がっていれば良いが、直江津地区だけではないかと思っており、その点が欠けている部分だと思う。

そして、出来れば受益者負担を増やしていただき、自立していただきたいと思った。

【田村利男委員】

提案No.1 1と同じ提案団体なので、寒ブリ祭りに対する思いも確認したらどうか。

【町屋委員】

委員側から言いたいことがあるから来ていただく、というヒアリングの主旨が違ってくるのではないか。

質問で「材料費分だけでも受益者負担を求める考えはないか」と再三聞いてきた。だが、回答は、「パック容量を削減しつつ、価格を上げることを検討して参ります」とあり、検討はしているかもしれない。人件費や設営費、会場費はしょうがないにしても、

同額で良いからブリを売った代金くらい徴収しなければおかしい話ではないか。それくらいは求めても良いのではないか。

【田村雅春委員】

提案者の思いもあり、継続して行っている事業である。これが、漁業組合等で実施できるのかとなると、それも疑問に思う。町屋委員が言うように会場費や設営費等は分かるが、ブリが半値で販売されている。

【丸山委員】

イベントに行きたいと思っている方たちは、自分に得がないと参加しないと思う。心を持って動いている人間はほんのわずか。ほとんどの人は楽しさを得たり、物質的に何か安く買えたりしないと行かない。何も得がなければ人は集まらない。主催者側にすれば、とにかく人を集めたいと思っており、そのためには、お得感を出さなければいけない。

【磯田委員】

継続事業で一過性のイベント事業の見直し、あるいは、地域協議会で採択する基準を設ける必要がある。今までの実績を精査していき、「止める決断」をする場面の必要も出てくると思う。それを採択の前にやっておくべきなのではないかと思っている。

【青山恭造会長】

磯田委員の意見は、ヒアリングの件の話し合いが終わってから行いたいと思う。

では、提案者から来ていただいたほうが良いと思う方は挙手願う。

(挙手多数)

では、ヒアリングに来ていただくこととする。

・ヒアリングを実施する提案団体

「提案No.1 1 《直江津港から元気発信》事業」

「提案No.1 2 ビーチフェスティバル in なおえつ事業」

「提案No.1 4 佐渡寒ブリ祭り事業」

以上の3提案団体からヒアリングに来ていただくことで委員から同意を得る

・1提案団体のヒアリング時間について話し合い

それでは、ヒアリングが終わった後、先ほど磯田委員言った継続事業の取扱い方についての協議をしていきたいと思う。

【町屋委員】

継続事業とはいえ、各事業で違う部分というのはある。イベント事業は自立していた
だきたいと思うが、花を植える、ということは自立のしようがない。

【増田副会長】

磯田委員が言ったのは、1日だけのイベントは話し合いをしたほうが良いと思うが、
花を植える事業等はそんなことはない。

【磯田委員】

本当は、全事業についてきちんと議論したほうが良いと思っているが、まずは継続事
業から協議したほうが良いと思っている。

【町屋委員】

当補助金がなくなっても続けてほしい事業だからこそ、土台をしっかりしてほしい。

【増田副会長】

その前提に立っていれば、また違った質問も出てきたのだろうが、今回は、これで行
くしかないと思っている。ただ、磯田委員がおっしゃったことも考慮しながら採点して
いただきたいという趣旨はある。

【青山恭造会長】

まとめるが、3件の提案団体からお越しいただき、今回の協議会で出た質問に答えて
いただき、再度、質疑応答を行う。

磯田委員が言っている意見については、いつ頃協議したらよろしいか。

【増田副会長】

そのことについては、来年度、地域活動支援事業があるか分からない。来年度の方針
が出た時に地域協議会としてどうするか、という話し合いをしていきたいと思う。

【磯田委員】

次回の会議は、3団体からのヒアリングだけを行うということか。

【増田副会長】

早めに終わったら、視察についての話し合いや今後の自主審議事項の取扱いについて
の協議もしていかないといけないと思うので、事務局から提案していただきたい。

【青山恭造会長】

それでは、以上でヒアリングに向けた協議を終了とする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・次回協議会：6月2日（金）午後6時から

【青山恭造会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。